

パネリスト略歴（発表予定順）

鈴木勝雄 | Suzuki Katsuo

東京国立近代美術館主任研究員（日本）

1968年、東京（日本）生まれ。東京大学大学院修士課程修了（美術史）。1998年より東京国立近代美術館に勤務。専門は日本および西洋の近代美術・現代美術。同館での企画展に、「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」（2008年）、「沖縄・プリズム 1872 - 2008年」（2008年）や「実験場 1950s」（2012年）がある。シンポジウム「戦後日本美術の新たな語り口をさぐる—ニューヨークと東京、二つの近代美術館の展覧会を通して見えてくるもの」（東京国立近代美術館、国際交流基金、2013年）に参加。東京都在住。

皮力（ピー・リー） | Pi Li

M+ Museum of Visual Culture シグ・コレクション・シニア・キュレーター（香港）

1974年、武漢（湖北省、中国）生まれ。2000年に中央美術学院修士課程修了後（美術史）、2009年に同大学院博士号取得（美術理論）。キュレーターとして活躍する一方で、美術批評も多数執筆。第25回サンパオロ・ビエンナーレ（2002年）、第4回上海ビエンナーレ（2002年）では中国パヴィリオンのアシスタント・キュレーターを務める。企画展として、「Star of Hope」（青島彫刻博物館、山東省、2000年）、「Under Construction: New Dimensions of Asian Art」（東京オペラシティアートギャラリー、国際交流基金フォーラム、東京、2002年）、「China Power Station」（サーペンタイン・ギャラリー、ロンドン、2006年）や「Overstep: Shen Yi Elsie & Lei Benben Works」（Siemens Home Appliance Art Space、北京、2011年）などがある。現在、2017年末開館予定のM+ Museum of Visual Culture のシグ・コレクション・シニア・キュレーター。香港在住。

パク・ヘソン | Park Hyesung

韓国国立近現代美術館アシスタント・キュレーター（韓国）

1974年、仁川（韓国）生まれ。2003年にソウル大学校 M.F.A.取得後（美術理論）、2011年に同大学大学院博士号取得（芸術政策管理）。2011 - 13年までソウル大学校美術館キュレーター、2013年より現職。「Kim Byung-ki」展（Gana Art Gallery、ソウル、2000年）や「Re: Quest - Japanese Contemporary Art since the 1970s」展（ソウル大学校美術館、ソウル、2013年）に携わる。ソウル在住。

頼瑛瑛（ライ・エイエイ） | Lai Ying-Ying

国立台湾芸術大学大学院芸術文化政策管理研究所所長（台湾）

1959年、台北（台湾）生まれ。国立台湾師範大学博士号取得（美術教育・芸術政策管理）。台北市立美術館シニア・キュレーター、台北現代美術館副館長を勤めたのち現職。著作に、『台湾前衛：60年代複合芸術』（Yuan-Liou Publishing Co. Ltd.、2003年）や『現代芸術管理：芸術学的考察』（芸術家出版、2011年）など。企画展に、「達達的世界（The World According to Dada）」（台北市立美術館、台北、1988年）、「Gravity of the Immaterial: The Inaugural Exhibition of ICA, Taipei」（Institute of Contemporary Art, Taipei、台北、2001年）、「快樂迷宮（Labyrinth of Pleasure）」（台北現代美術館、台北、2001年）などがある。台北在住。

林道郎 | Hayashi Michio

上智大学国際教養学部教授（日本）

1959年、函館（日本）生まれ。1991年にコロンビア大学大学院修士課程修了後、1999年に同大学院博士号取得（美術史）。専門は近現代美術史、美術批評。主な著作に、『絵画は二度死ぬ、あるいは死なない』（全7冊、Art Trace Press、2003–2009年）、『From Postwar to Postmodern: Art in Japan 1945-1989』（共編、ニューヨーク近代美術館、2012年）、「オン・ザ・テーブル—静物の実験」（東京都近代美術館「アジアのキュビズム」展図録、2005年）、「絵画と空間—ロスコー・チャペルの経験」（川村記念美術館「マーク・ロスコー」展図録、2009年）や「Tracing the Graphic in Postwar Japanese Art」（ニューヨーク近代美術館「Tokyo 1955-1970: A New Avant-Garde」展図録、2012年）がある。東京都在住。

パトリック・D・フローレス | Patrick D. Flores

フィリピン大学ディリマン校美術学部教授（フィリピン）

1969年、マニラ（フィリピン）生まれ。2000年にフィリピン大学ディリマン校博士号取得（フィリピン学）。主な著作に、『Painting History: Revisions in Philippine Colonial Art』（マニラ大学出版、1999年）、「一見したところ、キュビズム」（東京国立近代美術館「アジアのキュビズム」展図録、2005年）、『Past Peripheral: Curation in Southeast Asia』（シンガポール国立大学美術館、2008年）がある。キュレーターとしての主な企画に、第1回メルボルン・ビエンナーレのフィリピン・パヴィリオン（1999年）、「36 Ideas from Asia」（シンガポール美術館企画、ヨーロッパ巡回東南アジア美術展、2000–03年）、「Luz: Traces of Depiction」（フィリピン国立博物館、マニラ、2006年）などがある。現在、フィリピン大学ヴァルガス美術館のキュレーターを兼任。マニラ在住。

アンドレアス・スジウド・ダルタント | Andreas Sudjud Dartanto

インドネシア芸術大学 (ISI) 講師（インドネシア）

1976年、バンカラン（インドネシア）生まれ。サナタ・ダルマ大学院修士課程修了（宗教学・文化学）。インドネシア芸術大学講師を務めながら、インディペンデント・キュレーターとしてインドネシア内外で様々な展覧会企画に携わる。第9回ビエンナーレ・ジョグジャ（「Neo-nation」、2007年）の共同キュレーター、第11回同ビエンナーレ（「Equator Biennale」、2011年）では審査員の一人となる。ジャカルタ・現代セラミック・ビエンナーレ II（2012年）も企画。ジョグジャカルタ在住。

プラポーン・カムジム | Prapon Kumjim

チュラーロンコーン大学アート・センター長（タイ）

1972年、バンコク（タイ）生まれ。1997年にグラスゴー大学 M.F.A.取得後、2009年にメルボルン工科大学 (RMIT) D.F.A.取得（メディア・アート）。1998年よりチュラーロンコーン大学講師を務め、2004年より現職。メディア・アーティストでもあり、参加した展覧会に、「Somewhere Beyond the Sea」（バンコク大学ギャラリー、バンコク、2001年）、「Memory and Disappearance – Recent Thai Art」展（Momenta Art、ニューヨーク、2003年）、「Bangkok, Bangkok」展（Kunstenfestivaldesarts、ブリュッセル、2005年）、「My Time is Not Your Time」（RMIT アートギャラリー、メルボルン、2009年）などがある。バンコク在住。

アデル・タン | Adele Tan

シンガポール国立美術館、キュレーター（シンガポール）

コートールド・インスティテュート・オブ・アート（ロンドン）博士号所得（美術史）。専門は、東南アジア・中国現代美術。『British Journal Third Text』紙のアシスタント・エディターを務める。主な著作に、「Lee Wen and the Untaming of Yve Klein: Art and the Iterative Force」(『PAF: A Journal of Performances and Art』32巻2号、MIT出版、2010年)や「Return of the Exhibition: 12th Istanbul Biennale」(『Eyeline』76号、Eyeline出版、2012年)などがある。シンガポール在住。

サイモン・スーン | Simon Soon

シドニー大学大学院博士課程在籍、インディペンデント・キュレーター（オーストラリア）

1983年、クアラルンプール（マレーシア）生まれ。2011年よりシドニー大学大学院博士課程在籍（美術史・美術理論）。主な著作に、「An Empty Canvas on which Many Shadows Have Already Fallen」(『New Malaysia Essays 3』、マタハリ・ブックス、2010年)や「Spatio-Temporal Currency: The Kalachakra Sand Mandala as Cultural Object in Performance」(『Modern Art Asia』11号 Enzo Arts and Publishing、2012年)などがある。「Southeast Asia Graduate Students Conference」（コーネル大学東南アジアプログラム、ニューヨーク、2012年）、「Sites of Construction: Exhibition and the Making of Recent Art History in Asia」（Asia Art Archive、香港、2013年）や「シンガポール・ビエンナーレ2013 シンポジウム」（シンガポール美術館、シンガポール、2014年）などのシンポジウムで発表。シドニー在住。

ユージン・セン | Yu Jin Seng

シンガポール国立美術館シニア・キュレーター（シンガポール）

1979年、シンガポール生まれ。シンガポール国立大学修士課程修了後（歴史学）、メルボルン大学アジア研究科博士号所得。2009年にシンガポール国立美術館の東南アジアギャラリー主任キュレーターを務め、2014年より現職。主な企画展に、「From Words to Pictures: Art During the Emergency」（シンガポール美術館、シンガポール、2007年）や第4回シンガポール・ビエンナーレ（2013年）がある。論文には、「Artistic Expressions in Fine Art」(『Malay Heritage of Singapore』、Suntree Media Pte., Ptd.、2011年)や「Mapping Art in Southeast Asia」(『Institution for the Future』、Centre for Chinese Contemporary Arts、2012年)など。シンガポール在住。

グエン・チン・ティー | Nguyen Trinh Thi

ビデオ・アーティスト、ハノイ DocLab 所長（ベトナム）

1973年、ハノイ（ベトナム）生まれ。1999年にアイオワ大学修士課程修了後（ジャーナリズム）、2005年にカルフォルニア大学サンディエゴ校国際関係・パシフィック・スタディーズ研究科修士課程を修了。ドキュメンタリー、実験的映画や、写真など、多種多様なメディアを使用し、動画作品を制作。「LIM DIM」展（ステルネルセン博物館、オスロ、2009年）、第2回關渡ビエンナーレ（台湾、2010年）、「Move on Asia: Video Art in Asia 2002 to 2012」（ZKM | Karlsruhe、ドイツ、2012年）など多数の国際展に参加。映像作家の育成とドキュメンタリー映画の普及を目的に映像制作センター、ハノイ DocLab を2009年に創設。ハノイ在住。